

# 町田地区保護司会だより

第96号

発行 町田地区保護司会  
会長 平本 瑞一  
編集 広 報 部  
TEL 042(794)6791



節分祭・豆まき（大蔵町 春日神社）



## 再犯防止を願う

町田地区保護司会 副会長 小山 典子

### 宣言：犯罪に戻らない・戻さない

「立ち直りをみんなで支える明るい社会」が、犯罪対策閣僚会議において決定されました。

その調査結果によりますと約3割の再犯者によって、約6割の犯罪が行われており、平成25年に新たに受刑した6割が再犯者ということで再犯防止が大きな課題となっています。

経済界、地方公共団体、関係機関に加え、あまねく国民一人ひとりの立場に応じて、再犯防止に向けた活動に直接・間接的に参加・協力してもらえるよう働きかける。（一部抜粋）ということです。

再犯率の高い薬物に関してみると、刑の一部執行猶予が施行され、より多くの再犯者が出るのではないかと懸念されます。今まで観察所はじめ各関係機関において、本人や家族のためのケアがなされております。何れもウイーク・デーのため中には仕事を休まなければならない人もいます。

休日に行われている「NOドラッグズ警視庁」を

紹介します。

警視庁・池袋警察署・愛宕警察署・新宿警察署の4か所で行われています。「捕まえた人を再び捕まえたくない。警察は捕まえるだけが仕事ではない。」という熱い気持ちで5年前から始まった活動です。

警察の講堂に薬物経験者とその家族・施設に入っている人の家族をケアする警察官・医師・弁護士・都職員・福祉センター職員・ダルク職員その他、私も麻薬中毒者相談員として参加しています。

私たちは、いくつかのテーブルに分散して座り約3時間ディスカッションをします。本人も家族も本音を話せる場所があつて喜んで参加しています。今後、他の警察でもこの活動が広がっていくことを切にお願いし、私たち保護司も応援・お手伝いできることがあれば、お声をかけてほしいと思います。

今年度も会員・関係者の方々にご協力をいただきまして、無事各事業を終えることが出来ました。感謝申し上げます。

# 平成27年 新春の集いを開催

— 新たな発展を期して —



平本町田地区保護司会会长



南元立川支部長



石阪町田市長



上野町田市議会議長



佐藤教育委員長



金子町田警察署長



宮島青少協会長



細野協力事業主会会長



上谷更生保護女性会会長



中里桐友会副会長

恒例の「新春の集い」が1月15日、ホテル ザ・エルシイで開催された。冷気身に滲みる雨天にもかかわらず、出席者72名（内、来賓20名）を迎えての盛会であった。

第1部は、藤牧総務部長の司会で進められ、小山副会長の開会の辞、平本会長の挨拶で始まる。

会長挨拶は26年度の目標であった①新任保護司の発掘②関係諸機関との連携③情報の共有とIT時代への対応を挙げ、それぞれについての一定の成果と、今年度更にそれらを推し進めたいとの決意を述べたものである。

法務大臣表彰3名を含む受彰者34名の紹介の後、続いて来賓の方々（別記）の祝辞もそれぞれの立場から会長挨拶を補強するものであった。全体的に犯罪件数は減少しているものの、昨年度夏以降の再犯者の増加、暴走・ストーカー・DVなどの犯罪が目につくようになったという（竹内主任保護観察官）。「他人を幸せにすることが自らを幸せにすることもある。社会参加活動などにみられる共助・公助の精神を大切にしたい」（金子町田署長）との思いは参加者共通の気持ちでもあろう。

「犯罪のない街づくり」（上野市議会議長）、「家庭・地域と連携した教育の推進」（佐藤教育委員長）など、新たな課題と決意が示された各方面からの

祝辞であった。

第2部は、村田総務部副部長の司会のもと、来賓挨拶に続いて、中里桐友会副会長の乾杯の音頭で始まる。今年もまた地区ごとに合唱、独唱がくりだされるなか、来賓の方々の美声も披露された。日頃接することの少ない者どうしが会話を交わし、親交を深める貴重な楽しいひと時でもあった。

竹生少年第一係長のメドレーの歌唱をトリに、諸墨副会長の歌声を添えた閉会の挨拶で、新しい年への希望を込めた「新春の集い」も幕を閉じた。

（広報部副部長 鬼頭 明成）

## 主なご来賓(敬称略)

- ・南元英夫 東京保護観察所立川支部長
- ・竹内研児 同 町田地区担当主任保護観察官
- ・石阪丈一 町田市長
- ・上野孝典 町田市議会議長
- ・佐藤 昇 町田市教育委員会教育委員長
- ・坂本修一 町田市教育委員会教育長
- ・須崎信孝 町田市地域福祉部長
- ・金子伸司 町田警察署長
- ・曳地清一 町田警察署生活安全課長
- ・竹生智恵子 町田警察署生活安全課少年第一係長
- ・宮島栄一 町田市青少年健全育成
- ・細野泰司 地区委員会連絡協議会会長
- ・上谷さと子 町田地区更生保護事業協力事業主会会長
- ・中里猪一 町田地区更生保護女性会会長
- ・中里猪一 町田地区桐友会副会長

研修  
特集平成26年度  
町田地区自主研修

## 今こそストップ！薬物乱用

春の陽気に包まれた1月27日、本年度自主研修が町田市教育センターにて行われた。テーマは、昨今社会問題になっている「薬物乱用防止について」である。

講師として東京都福祉保健局健康安全部薬務課麻薬対策係、福海早矢氏が①薬物乱用の現状②危険ドラッグについて③薬物依存症について④薬物乱用防止啓発の4つに分けて話された。

現状の覚醒剤事犯は、平成22年をピークに3年連続減少しているものの全薬物事犯の84%、大麻事犯は12%で推移している。覚醒剤では、20代以下は減少しているが50代以上の高齢化が進んでいる。

大麻でも全国的には減少傾向だが、東京においては20代以下と初犯者の増加が目立つ。再犯率では覚醒剤、大麻とも増加傾向である。

2012年の「全国中学生意識・実態調査」では、一部生徒に危険ドラッグ使用が見られることから低年齢化の傾向にある。今後とも「ドラッグ汚染の実態」を各学校に喚起しなければならない。同ドラッグは覚醒剤、大麻同様にネットや携帯電話で簡単に入手できることから規則を厳しくする必要がある。

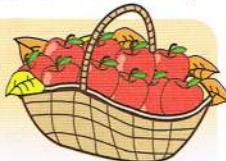


薬物依存症とは、意志とは関係なく薬物に支配され、自由を失ってしまう病気である。最初はちょっとした遊びから使用し習慣づき、依存症になることが多い。その場合、東京都の支援機構にて「認知行動療法」を受診することができる。

防止啓発情報は、東京都のwebサイトやグーグルで簡単に検索できるようになっている。また、リーフレットやタイアップ広告等でも啓発していきたい、と熱弁をふるった。当保護司会会員一人ひとりが市民に対して啓発してもよいのでは！

（研修部 内田 三郎）

## 管外一泊自主研修 桐本少年刑務所の見学



今年度の管外研修は、11月18～19日に参加者36名で松本少年刑務所の見学と秋真っ盛りな信州路を散策しました。

最初の見学地は、「御柱」で有名な諏訪

大社上社本宮を参拝。旅の安全を祈願した後、奥座玄関上に「愛の母子像」のレリーフが掲げられた松本少年刑務所を訪ねました。

「松本少年刑務所の紹介」ビデオを視聴後、刑務所の概要説明があり、職業上の資格等を取得させること、刑務所内にある全国で唯一の中学校「桐分校」と「通信制高校」で卒業資格を取得させることに力を入れていること等々を伺いました。

「桐分校の紹介」ビデオを視聴後、施設見学に移り、運動場・作業所・教室での少年達の姿を見学。学習を志す少年には、消灯後も自習ができるように、特別に個室が用意されていました。

どの子も素直そうな少年達で、一日も早い自立更生・社会復帰を心の中で願うばかりでした。

一日目の最後は、国宝松本城を見学。暮れゆく秋の日差しに映える美しい姿を堪能しました。

二日目、松代に向かう途中、千曲川の川面から立ち昇る水蒸気（朝霧）が見られ、幻想的な光景に歓声が上がりいました。

「真田宝物館」、「真田邸」、「文武学校」を思い思いに巡った後、太平洋戦争の遺跡「象山地下壕」を見学。最後に、リンゴ農園で各種のリンゴの味比べをして、ひと時を楽しみました。

今回も施設見学、ビデオ研修、文化財・史跡めぐり、味覚探訪、リンゴのお土産付きと、盛り沢山な内容で、実りある管外研修となりました。

（研修部 村上 正博）

## 堺分区

## 横浜税関の見学

11月7日、分区の自主研修として、横浜税関の見学を実施。担当官の案内で別室に案内され、税関の概要について説明を受けた。

税関は財務省の所属機関で、全国を9つの地域に分けて管轄、横浜税関の管轄区域は、宮城、福島、茨城、栃木、千葉、神奈川の6県に及んでいる。

税関の輸入貨物の中で偽ブランドやコピー商品の展示コーナーでは、バック等の本物と偽物が並べて陳列してあったがその判別がつけられない商品ばかりであった。また、大型コンテナの一部を改造し、その部分に不正薬物等を忍ばせ通関させようとして摘発されたコンテナも展示されていた。これは全国で初めて横浜税関に導入された大型X線検査装置による効果と思われる。特に税関での輸入貨物の中で、中国からの侵害物品差し止め件数は、平成25年度25,844件で全体の92%を占め中国一極化が見られる。

全国主要港別貿易概況は、

[輸出額] 1位名古屋港 2位成田空港 3位横浜港

[輸入額] 1位成田空港 2位東京港 3位名古屋港

6位横浜港

税関は、複雑多岐にわたる通関手続きの業務をコンピュータ化し輸出入情報処理システム(NACCS)として適正に、迅速に処理し、効率化、情報の共有化を図っている。

(堺分区長 吉川 忍)



## 各分区の活動

## 南分区

## 後期の活動報告

平成26年11月9日に更生保護法人鶴舞会にて保護司と在会者との交流会が行われました。在会者7名と小松主任官・平本会長・保護司11名が参加。

蕎麦打ちの実演と保護司による芋煮づくりの後、食べながらの歓談。「打ち立ての蕎麦は初めて、美味しい」「死んだお袋の味、数十年ぶりの家庭の味を思い出した」「多人数で食べることは心が和らぐ。人の温かみを教えていただいた」等と感激する在会者の心情が胸に迫りました。

平成27年2月6日にスポーツジャーナリスト瀬戸口仁氏による講演会「アンガーマネジメント」をなるせ駅前センターで開催しました。怒りやいら立ちとい

## 忠生分区 社会参加活動

## みんなで力を合わせ清掃活動



平成26年11月30日忠生公園において、第5回社会参加活動を、対象者(8名)、保護観察所竹内主任官、町田警察署、更生保護女性会、町田市役所福祉総務課、保護司等32名が参加し実施した。

午前10時から清掃班、炊事班に分かれ作業が始まった。前日の雨のため、水分を含んだ落ち葉が公園を覆い、皆が額に汗しながら黙々と落ち葉を集めている様子に、公園に来ていた方が声をかけて下さったり、手助けをして下さったりする場面もあった。休憩も早々に切り上げ簞を手に作業を始める対象者に励まされるようであった。面接時とは異なる対象者と出会える良い時間を過ごした。

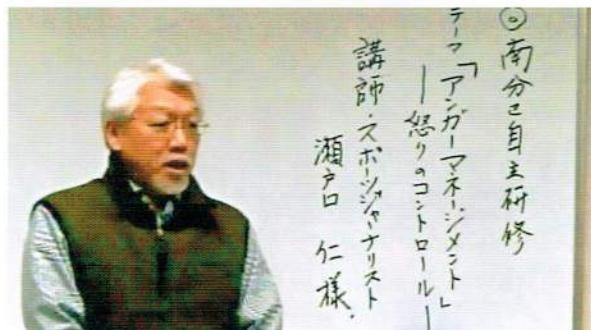
昼食は、炊事班の愛情たっぷりのカレーライスに全員で舌鼓をうち、お代わりする対象者もあった。食後、対象者から“このような機会に参加したい”“疲れた”など感想があがった。最後に竹内主任官より講評を頂き解散となった。

(忠生分区 小山 洋子)

った感情をコントロールすることで適切な問題解決や対人関係の改善を図ることができる。その具体的な方法をスポーツ界の裏話を交えて、分かりやすく面白くお話しいただきました。

人の怒りは6秒がMAXでその6秒をやり過ごすには…等対象者の接遇にも参考になる大変有意義な講演でした。

(南分区 木村 恵理子)



## 鶴川分区 学校と地域への関わり

11月11日、第64回「社明」鶴川地区地域懇談会第22回を鶴川市民センターで開催した。

講演会参加者168名、この活動は平成5年から学校PTA、地域諸団体の保護司に対してのご理解とご協力を頂き行っている。講師に鶴川第二小学校長 後藤良秀先生を招き講演会を行った。

講演会のテーマは、「鶴川で学び、生かす力」であった。内容は、まず鶴川地区50年の変遷と鶴川第二小学校が児童の学力育成のために地域といかに関わったかを話して下さった。

後半は、学校が地域、社会から求められている事柄であった。具体的には、21世紀に生きる子供たちが、身に付けてほしい力として、基礎・基本を確実に身につけた上で、思考力、判断力、表現力の大切さを話された。これらの力を培うために学校だけでは達成できず地域の協力も不可欠だと結ばれた。また、地域における人との関わり自然、歴史、文化が学びになるという話に多くの方が感動された。

私たち保護司も日々研鑽を重ね、対象者だけでなく学校、地域との連携を密に相互の協力が重要と認識した。また、新任保護司の発掘にもご協力をお願いした。

（鶴川分区 真美 真理子）



## ひまわり相談研修会 一心を病んでいる方の相談一

12月9日、サポートセンター町田において臨床心理士の澤地明秀氏を講師として招き研修会を実施した。演題は「心を病んでいる方の相談」であった。

講演に先立ち、町田地区保護司会長及び中里サポートセンター長から挨拶がなされた。講師は更生保護法人鶴舞会の職員で、且つ保護司も兼ねていることから、和やかな雰囲気の中においても真剣な講演が行われた。

## 各分区の活動

## 町田分区 社会参加活動 「冬の清掃活動」



町田市青少年施設ひなた村での清掃作業



平成26年12月14日、町田市青少年施設ひなた村で、社会参加活動として清掃作業を行いました。

当日は保護司13名、主任官、対象者2名の参加があり、冬晴れの中、大量の枯葉・枯枝を掃いて撤去する作業をしました。12月のひなた村は枯葉が積もり、遊歩道も見えなくなっていましたが、対象者が汗をかきながら真面目に作業に取り組み、あっという間にきれいになりました。

広場では集めた枯葉で焼き芋を、炊事場ではカレーを作り、作業後に全員でいただきました。

保護司1年目の私にとって初めての経験でしたが先輩保護司の方たちが手際よく作業を進め、対象者に優しく声をかけながら活動する様子を近くで見て、とても勉強になりました。対象者からの「また参加したい」「保護司さんが優しく話しかけてくれ、指導してくれて楽しかった」という感想を聞き、とても嬉しかったです。

このような社会参加活動が立ち直りの助けになればと願い、永く続けていきたいと思います。

（町田分区 手塚 圭子）

専門的な話も多かったが参加者の精神状態を図るテストが行われるなど、中身の濃い研修会でもあった。今後の相談業務にも是非役立たせていきたいと感じた。閉会の挨拶は副代表井上三夫氏が行い研修会を終了した。

（ひまわり相談員  
高野 昌憲）



第64回 “社会を明るくする運動”  
**作文コンテスト優秀賞表彰式**

平成27年1月6日、東京保護観察所集団処遇室に於いて第64回“社会を明るくする運動”作文コンテスト優秀賞の表彰式が行われました。

東京都の優秀賞は、小中高合わせて14作品で、町田市から1作品(つくし野中)が選ばれ、作文コンテスト選考委員会から賞状と記念品が授与され、式終了後、町田市役所へ戻り石阪市長への表敬訪問をし、受賞報告をしました。

尚、入賞及び奨励賞は以下の通りです。おめでとうございます。多数の作品ありがとうございました。次年度もたくさん応募をお待ち申し上げます。

(地域活動部長 内田 純子)

**優秀賞**

**中学生の部**

「明るい社会のために」

町田市立つくし野中学校1年 村上りんさん

町田駅周辺

**地域防犯合同パトロール**

12月8日に町田駅周辺の地域防犯合同パトロールを実施しました。

町田警察署生活安全課の荒牧課長代理と森少年第一係主任に同行していただき、平本会長以下保護司が8名、上谷会長以下更生保護女性会から7名が参加し、二班に分かれて、夕方のマンガ喫茶、ゲームセンター、危険ドラックを取り扱っていると思われるマンション周辺を見て回りました。

夕方にも拘らず「夜の町田の顔」を意識させられました。その後、交流会を兼ねた反省会を行い、防犯を含めた私たちの責務の重要性と次年度への要望などを話し合いました。

(地域活動部 桐生 敏子)



**佳作**

**小学生の部**

「悪いことをしてから立ち直るために」

町田市立成瀬中央小学校6年 甲斐明日美さん  
**中学生の部**

「私たちから変えていく」

町田市立南成瀬中学校1年 加藤優佳さん

**激励賞(5校)**

|             |           |
|-------------|-----------|
| 町田市立つくし野中学校 | 町田市立忠生中学校 |
| 〃 南成瀬中学校    | 〃 小山中学校   |
| 〃 金井中学校     |           |

**保護司国際研修に参加して**

国連アジア極東犯罪防止研究所第159回国際高官セミナーが平成27年1月14日から2月13日まで実施された。参加者は、海外から18名、国内7名、それぞれの刑事司法実務家で上級幹部職員であった。

本セミナーの主要課題は「社会内処遇における地域社会及び市民との連携」であり、連携の例として保護司制度が挙げられた。1月27・28日に都府県から9名の保護司が参加し生活環境調整、個別処遇事例、社会貢献活動、サポートセンター活動、及び被害者対応事例を発表した。的確な同時通訳があり、事例発表や質問を無事終了した。その後、夕食会、懇親会では通訳を通して近くの方々と楽しい時間が共有できた。

今回の、アジ研研修等を通じて各国に保護司制度が確立していることを知り、日本の保護司が手本となるべき活動をしなければと意を新たにした。

(企画調整保護司 村田 功)



## 宮田博之保護司を偲ぶ

(更) 鶴舞会 馬場 秀一

鶴舞会では職員1名が退職してしまったことになっていたとき、私がかつて東京少年鑑別所と一緒に仕事をしていた、人柄のよい宮田さんが、頭に浮かんだ。

当時、長野少年鑑別所に再任用として勤務していた宮田さんに電話し、お互いの近況を話し合ってから本題に触れてみた。彼は寸時考えていたが。「春日部の自宅から大分遠いが、世話になることになるか。」との返事で、後任決定を喜んだことであった。

平成19年4月から鶴舞会の職員となった宮田さんは、厳しく生活指導する一方、通勤途中で「求人誌」を求めてきては、なかなか仕事の決まりぬものに活用させるなど、熱心に被収容者の社会復帰に意を注いでいた姿が強く印象に残っている。

彼は異常な体調不良を感じて、11月4日に検査入院して、7日ほどで帰らぬ人となってしまった。

私は、大きな穴が開いた気持ちで、ただただ冥福を祈っている。

### 各部紹介 ⑤

#### 広報部

広報部長 小野 敏明



みなさん、社内報やミニコミ誌などを編集した経験はありますか。

広報の編集、それは楽しい仕事です。現在、5人の部員と顧問の小山副会長で会報づくりを担当しています。昔は、原稿を集め、印刷会社に渡し、完成したら配布で済んでいました。

しかし、今は、少しでも安く仕上げようと、寄せられた貴重な原稿をパソコンでべた打ち(通称)し、割付、推敲、校正して印刷会社に入稿しています。表記や表現、ページのレイアウトなど、部員みんなで侃々諤々する楽しさや、完成した時の喜びや成就感を味わうこともできます。みなさまも是非、広報を担当してみませんか。

さて、会則によると、広報部の役割は、保護司及び保護司会活動の広報・宣伝です。現在は、①町田地区保護司会だより年3回発行②宣伝用リーフレットの作成、そして③多摩連ホームページへの情報提供が主な活動です。

また、10年毎に発刊する多摩連、東保連記念誌

## 2014年度 薬物乱用防止啓発講演会

### 「騙されるな! 危険ドラッグ」

12月11日、朝からの雨も上がり、師走の街が賑わいを取り戻す中、東京都薬物乱用防止推進町田地区協議会(会長広島昇)主催の講演会は町田市の協力のもと各種団体の応援を得て121名の参加者にて、町田市民フォーラム3階ホールで開催されました。

「危険ドラッグ」は悲惨な交通事故や凶悪な犯罪を惹起し、奥の深い社会問題としてその対策が急がれています。会場入口には、地元小・中学生による薬物乱用防止キャンペーンポスターの優秀作品も展示され、その撲滅への取組みは広がりを見せています。

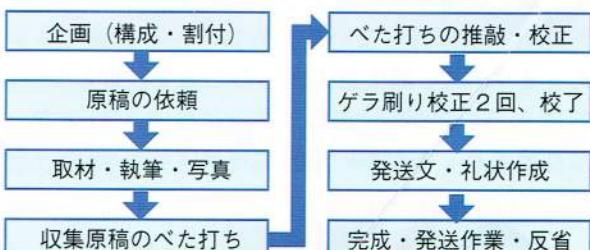
危険ドラッグに係る対象者も増加傾向にある中、当会からは30名の参加がありました。取りまとめをしていただいた分区長はじめ参加各位に紙面をお借りしお礼申し上げます。

(東京都薬物乱用防止推進町田地区協議会

指導員 鈴木 忠)

作成への協力もあります。

○会報発行までの流れは次の通りです。



完成した1100部の広報誌は、メール便や手渡しなどでお届けしています。

会報の働きは、単に広報、宣伝だけではなく、町田地区保護司会の歴史や記録保存という大切な役割も果たしています。



## 平成26年度 受彰祝賀会を開催

平成26年12月5日、立川グランドホテルに於いて、多摩地区保護司会連絡協議会受彰祝賀会が開催されました。

今年の立川支部管内の受彰者は、叙勲4名・褒章6名・法務大臣表彰23名・全国保護司連盟会長表彰16名で、計49名でした。町田地区保護司会からは、法務大臣表彰3名、全国保護司連盟会長表彰2名でした。

祝賀会当日は、受彰者40名とご来賓、多摩連理事等、総勢112名が集い、賑やかな会となりました。会に先立ち、受彰者と地区会長の記念撮影が行われ、午後2時に第1部が開宴。第2部では、南京玉すだれの会による古典芸能、玉すだれが披露され大いに盛り上がり閉会となりました。

(平成26年度多摩連情報 5より一部抜粋)

## 平成27・28年度 役員候補推薦委員会 報告

各分区からの委員10名で慎重に審議した結果、今後の参考になるように、「覚書」を添えて、役員候補者を全会一致で推薦させて頂きました。

(役員候補推薦委員会 委員長 梅木信一)



会長に答申書を手渡す委員長

## 新任保護司のご挨拶



町田分区  
市村 善明

町田にて長年ソーシャルワーカーとして活動しております市村と申します。

このたびの新任研修で保護司についての制度や役割等を学び、その歴史の重みや仕組みの重要性を認識し、身が引き締まる思いです。

ただ、正直判らないことも多く、不安感も多少ありますので、諸先輩方からお知恵を拝借しつつ、気負うことなく事に当たりたいと思います。  
どうぞよろしくお願い申し上げます。



町田分区  
神藏 宗

### 新任保護司として

昨年、分区内的お世話になっている方より、保護司のお話を頂き、自分自身の気持ちもまとまらないまま、保護司に拝命されました。研修を受けたものの、その在り方がはっきりと理解できていない面が多くありますが、色々なお話を頂きその職務・社会的責任等を学んで行きたいと思います。

今後、自分自身もより一層健全な社会人として成長し諸先輩のご指導を頂き、活動にも力を入れて行きたいと思います。宜しくお願い致します。



町田分区  
宮野入 隆史

この度、保護司のお仕事に関わらせて頂くことになりました。若い子達の感覚は私達の世代では少なからずとも皆、通ってきた道であり理解できる事も多くございます。何がダメで、何が良くてをハッキリとさせ、全ての事柄に感謝や想いを伝えていける存在でありたいと思っております。若輩者ですが自分自身の考え方や想いは変えず、私自身ができる事を精一杯やらせて頂く所存であります。皆様何卒宜しくお願い申し上げます。

## 編集後記

四季が巡り春が到来しました。地区保護司の確保も順調に推移し、実を結びつつあります。

さて、更生保護1月号をご覧になりましたか？

「ひまわり花壇」に堺分区小川洋一氏の短歌が、秀作で掲載されました。皆さんも、再三、少年に約束を裏切られた経験があるでしょう。その場面や心情を上手に捉え、共感や感銘を受けますね。選者の講評も是非ご覧ください。

巻頭言は、小山副会長に寄稿して頂きました。再犯をいかに防止するか、その具体策は、私たちの重要な課題です。終わりに、玉稿をお寄せ下さいました皆様に心より感謝申し上げます。

(小野敏明 記)

平成25・26年度 広報部

(担当副会長) 小山典子 (部員) 小野敏明  
鬼頭明成 小川洋一 榎本真幸 市川恵子